

Ⅲ. 專 門 分 野

[基礎看護学]

必修科目(1)

科目	看護の原理	単位	1	時間数	30	開講期	1年前期	担当者	看護師：瀧 泉
----	-------	----	---	-----	----	-----	------	-----	---------

講義の概要および学習目標	<p>看護学を学ぶためには、看護実践に潜む本質をつかむ必要がある。この科目では、ナイチンゲールの看護理論を基に、看護の基本的な考え方を学ぶ。誰かを看護するとはどういうことか、本来人間とはどのような存在か、人の生活や取り巻く環境も含め、思考の土台を作っていく。看護の専門家をめざすために、人としての倫理はもとより、看護学生としての倫理についても考える。</p> <p>また、社会の中で保健医療サービスを提供するシステムと、そのシステムの中で機能する看護の役割について学ぶ。</p> <p>《学習目標》</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 看護の主要な概念を理解する 2 看護の本質、看護独自の役割と機能、看護の今後の方向性について考える 3 自己の看護に対する考えを述べる
講義内容	<ol style="list-style-type: none"> 1 専門職として看護するとは 2 看護の変遷をたどる一どのように看護が発展してきたか 3 看護一般論の必要性和有用性 4 看護とは何か <ul style="list-style-type: none"> － ナイチンゲールの看護理論から看護の本質をつかみとる ナイチンゲールの三重の関心 看護のための対象論 5 健康と看護 6 看護の機能と役割 7 看護における倫理、看護学生としての倫理
評価法	<p>課題レポート 授業出席状況、参加度</p>
受講生への要望	<p>受講生の皆さんには「看護への関心や意欲をもって主体的に学習し、考えて行動できる看護師」をめざしてほしいと願っています。「人間」「生活」「健康」など馴染みのあることを、看護を考える土台になるよう深く考えていきます。難しい、苦手と思わず、これまで知っているつもりになっていたこと、知らなかった新しい見方に会える時間になると思います。みんなでたくさん話をしながら、楽しく学んでいきましょう。</p> <p>またレポート等の提出物は期日や時間を厳守してください。遅れた場合は減点処理しますので注意してください。</p>
テキスト	<p>書名／著者名／発行所</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 系統看護学講座 専門分野「看護学概論」／茂野 香おる 他／医学書院 2) " 別巻「看護史」／杉田 暉道 他／医学書院 3) " 別巻「看護倫理」／宮坂 道夫 他／医学書院 4) 科学的看護論 第3版／薄井 坦子／日本看護協会出版会 5) ナイチンゲール看護覚え書／F. ナイチンゲール／現代社 6) ナースが視る人体／薄井 坦子／講談社 7) ナースが視る病気／薄井 坦子／講談社
参考文献	<p>書名／著者名／発行所</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) ナイチンゲール伝 図説 看護覚え書とともに／茨木 保／医学書院 2) 看護学原論講義[改訂版]／薄井 坦子／現代社 3) がん看護へのことづて／武田 悦子／すぴか書房 4) DVD看護教育概論 アメリカの看護／ライダー島崎 玲子／医学映像教育センター 5) DVD看護教育概論 日本の看護／ライダー島崎 玲子／医学映像教育センター 6) DVD「いのちがいちばん輝く日」－あるホスピス病棟の40日－／溝淵雅幸監督作品

必修科目(2)

科目	看護のための認識論	単位	1	時間数	15	開講期	1年 前期	担当者	看護師：宮田 芳衣 看護師：河内 友子 看護師：倉持有希子
----	-----------	----	---	-----	----	-----	----------	-----	-------------------------------------

講義の概要および学習目標	<p>人間はからだとところを持っている。からだ(実体)は見えるし触れることができる。しかし、ところ(認識)は頭脳の働きであるから見えないし触れない。自分の認識を伝え、相手の認識を知るためには、表現し合うことが必要であるが、認識＝表現ではないため、行き違いが起きてしまうことがある。看護専門職は、人を相手にする仕事であるため、行き違いを起こさないように相手の認識を理解する能力の向上が必須である。そこで、この科目では人の認識とは何か理解し、相手の立場に立つことを論理的に学び、自分の体験を題材にして相手の立場に立つ考え方を練習していく。繰り返し練習していくことで、立場を変換する力が鍛えられ、看護の質の向上だけでなく、日常生活を豊かにすることにもつながる科目である。</p> <p>《学習目標》</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 起きている事象・現象における法則性(認識の三段活用)を日常で活用する 2 立場の変換過程を意図的に行い、他者との関係を豊かにするための方法を考える
講義内容	<ol style="list-style-type: none"> 1 人の認識とは 2 看護と認識の関係 3 モデル図(人間一般、円錐、人間関係) 4 観念的二重化、日常の中の体験を通して練習 5 認識発展の三段階、のぼりおりの練習 6 認識論を意図的に使いながら、身近な人との関係を発展させるための調和的解決方法を見出す。
評価法	各授業でのレポート 最終レポート
受講生への要望	<p>皆さんの生活の中で起きたことを題材にして、学習していきます。日常生活でコミュニケーションをたくさん行ってください。</p> <p>認識論では、相手の頭の中を考える方法を教授します。その考え方を使って、相手から表現されたことを手掛かりに、相手の頭の中を考える学習ですので、教員が答えを知っている、正解がある、暗記する、という授業ではありません。教員も皆さんと一緒に考えていきます。互いの体験を通して、みんなで成長していけるように、表現すること、聞くことを意識して授業に取り組んでください。</p>
テキスト	書名／著者名／発行所 基礎看護学の冊子
参考文献	書名／著者名／発行所 科学的看護論 第3版／薄井 坦子／日本看護協会出版会

必修科目(3)

科目	看護の方法 I	単位	1	時間数	30	開講期	1年前期	担当者	看護師:宮田 芳衣 看護師:松本 理恵
講義の概要および学習目標	<p>看護師は人々と出会った時、看護を必要としているか”見抜く”ことをしている。”見抜く”ためには看護師の五感と知識と技術を総動員して、その人を見つめることから始まる。看護の対象である人を見つめることができるようになるための観察の意義と方法を学び、対象の健康状態を把握するための観察技術、バイタルサイン測定技術を習得する。</p> <p>そして、得られた情報は何を意味しているのか、知識とつなぎ合わせて査定(アセスメント)することを学ぶ。</p> <p>看護の対象をさらに深く知り、必要な看護を提供していくために、かかわりを通して関係を築いていくためのコミュニケーションの意義と技術を学ぶ。</p> <p>看護はチームで行うため、チームで情報を共有すること、正しく伝えることの意義を理解し、観察やコミュニケーションで得られた情報を整理するための記録について学ぶ。</p> <p>《学習目標》 看護する目的での観察方法を学び、かかわりを看護に発展させるためのコミュニケーションを学ぶ。そして、得られた情報を整理するための記録について理解する。</p>								
講義内容	<ol style="list-style-type: none"> 1 看護におけるコミュニケーションの意義・技術 2 あいさつ・礼儀作法・他者からみて感じの良い振る舞い 3 看護をするための観察・観察方法 4 フィジカルアセスメントとは 5 バイタルサイン 6 体温とは、循環とは、呼吸とは 7 バイタルサイン測定技術の習得 8 看護記録 								
評価法	<p>バイタルサイン測定技術チェック 修了試験・小テスト 課題レポート</p>								
受講生への要望	<p>自分の行為が看護となるためには、技術の正確さのほかに援助を行う自らの姿勢が問われます。学習にまじめに取り組んでもらうことはもちろんですが、日々の自らの生活やコミュニケーションを見つめ、振り返ること、周囲の人と関係を築いていくことも望みます。</p> <p>循環・呼吸・体温は、解剖生理学や看護のための人間論で同時期に学びますので、得た知識を復習してこの授業に臨んでください。バイタルサイン測定技術は、生命維持の徴候の変化に気づくための基本的、かつ重要な技術です。そのため、正しい情報が得られ、対象にとって安全で安楽な測定技術を身に付けましょう。</p> <p>看護技術は手順だけ覚えても、実際に患者さんに行うことは難しいです。看護技術を行う意味・根拠を理解しながら、仲間とともに繰り返し練習し、身に付けていきましょう。</p>								
テキスト	<p>書名／著者名／発行所</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 系統看護学講座 専門分野「基礎看護技術Ⅰ」／茂野 香おる 他／医学書院 2) 系統看護学講座 専門分野「基礎看護技術Ⅱ」／任 和子 他／医学書院 3) フィジカルアセスメントガイドブック／山内 豊明／医学書院 4) からだの地図帳／佐藤 達夫／講談社 5) ナースが視る人体／薄井 担子／講談社 6) ナースが視る病気／薄井 担子／講談社 <p>* 基礎看護学の冊子(授業で配布します)</p>								
参考文献	<p>書名／著者名／発行所</p>								

必修科目(4)

科目	看護の方法Ⅱ	単位	1	時間数	30	開講期	1年前期	担当者	看護師：宮田 芳衣
----	--------	----	---	-----	----	-----	------	-----	-----------

講義の概要および学習目標	<p>私たち看護師は、目の前のその人にどのような援助が必要か、そしてどのような方法で看護を行えばいいかを考えて、主体的な看護を実践していく。</p> <p>そのためには自分で考え、判断し、行動できる力を身につけていくことが必要である。これらの力は日々の学習の取り組み、日常生活において意識して行っていくことで身についていく。さらに、根拠のある主体的な看護実践を行うためには、“どのようにすれば看護になるのか”を考えることができる看護師の頭(思考)が必要である。</p> <p>この科目では、看護師としての思考、成長につながる振り返りの方法など、これから看護を学ぶ上で必要な知識を理解していくことから始める。そして、後期からナイチンゲールの三重の関心、看護過程の展開技術(=看護になるための思考の筋道)を学ぶ。</p> <p>《学習目標》</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 考える力を自分で成長させる方法を理解する 2 三重の関心(知的な関心、心のこもった人間的な関心、実践的・技術的な関心)を注ぐ方法を理解する
講義内容	<p><前期></p> <ol style="list-style-type: none"> 1 「考える」とはどうか 2 情報を見極めるとは 3 成長につながる振り返り <p><後期></p> <ol style="list-style-type: none"> 4 看護過程の展開技術を学ぶとは 5 看護実践のための方法論 <ul style="list-style-type: none"> 知的な関心を注ぐ 心のこもった人間的な関心を注ぐ 実践的・技術的な関心を注ぐ
評価法	課題・レポートの内容による総合評価とする
受講生への要望	<p>前期の授業は、その他の授業、実習、学習において活用していくことが重要です。どうしたらいいのかわからなくなったら、この授業で学んだ、知ったことを見返せるように、授業に取り組んでください。</p> <p>後期の授業は、実習とも連動します。この授業では看護を実践するための思考を助ける道具(看護過程展開用紙)を使います。この道具を使いこなすには最初は難しい面もありますが、授業や実習で繰り返し使うことにより、少しずつ自分のものになっていきます。まずは、取り組んでいきましょう。</p>
テキスト	<p>書名／著者名／発行所</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 科学的看護論／薄井 坦子／日本看護協会出版会 2) ナースが視る人体／薄井 坦子／講談社 3) ナースが視る病気／薄井 坦子／講談社 4) 病気の地図帳／山口 和克／講談社 5) 健康の地図帳／大久保 昭行／講談社 6) からだの地図帳／佐藤 達夫／講談社 7) 看護の方法Ⅰで配布する基礎看護技術の冊子 <div style="margin-left: 400px;"> <p>} 後期の看護過程の展開技術にて使用する</p> </div>
参考文献	書名／著者名／発行所

必修科目(5)

科目	看護の方法Ⅲ	単位	1	時間数	20	開講期	1年前期	担当者	看護師：矢野 玲枝 看護師：中村 泉
----	--------	----	---	-----	----	-----	------	-----	-----------------------

講義の概要および学習目標	<p>人は環境から様々な影響を受けて生活しており、健康を維持・回復させるためには環境を整えることが不可欠である。人は、自分の家では自由に過ごすことができるが、病院や施設では治療や療養のため様々な制約があるなかで生活することとなる。これらの制約のなかでも快適でより日常生活に近い環境が保てるように整えることが看護には求められる。また、疾患からの回復がより促進するように「安全で快適な療養環境」を整えることも重要である。さらに、快適な療養環境は、その人の認識によっても変わることから、各々が感じる「快適な環境」には個人差が生じるものでもある。そこで、本科目では、五感を使い考えながら環境調整と感染予防について学んでいく。「安全で快適な療養環境」とは、①危険がなく安心できること②汚染物質から守られ衛生的であること③その人にとって苦痛がなく過ごしやすいことである。すべての対象にとってできるだけ「安全かつ快適な環境」をつくれるよう、さまざまな技術の習得を目指す。</p> <p>《学習目標》</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 健康にとって生活環境を整えることの意義を理解し、対象の健康回復に向けて安全で快適な環境に整えられるよう環境調整の技術を整えることができる 2 安全な医療を提供するための基本となる感染予防の知識・技術を身につける
講義内容	<ol style="list-style-type: none"> 1 生活環境とは 2 病床環境整備① 快適な療養環境の整備（環境整備）〔演習〕 3 病床環境整備② 快適な療養環境の整備 ベッドメイキング〔演習〕 4 病床環境整備③ 就寝患者のリネン交換〔演習〕 5 感染予防の意義と原則 6 標準予防策 スタンダード・プリコーションに基づく手洗い〔演習〕 7 感染経路別予防策 必要な防護用具の選択・着脱〔演習〕 8 医療器材の処理 ～洗浄・消毒・滅菌～ 9 事例患者の状況から居心地の良い病床環境を整える〔統合演習〕 10 筆記試験
評価法	統合演習は、パフォーマンス課題をもとにルーブリックにて評価します その他、講義・演習・グループワークの参加態度、課題、筆記試験にて総合的に評価します
受講生への要望	<p>まずは、自分の生活の中での「環境」を考えてみてください。そのなかで、療養環境は、どのような環境となるのか、状況をみた自身の「気づき」を大切にしてください。そして、どのように整えたら対象にとって安心できる「快適な環境」となるのかを考えてください。</p> <p>感染予防の技術習得においては、原理原則を踏まえながら技術方法の根拠を理解することが必要になります。ただ記憶するのではなく、意味を理解しながら技術を身につけてほしいです。</p> <p>臨床の場で環境に目が向き、自分で常に考えて行動できるようになることを期待します。</p>
テキスト	書名／著書名／発行所 1) 系統看護学講座 専門分野「基礎看護技術Ⅱ」／任 和子 他／医学書院
参考文献	書名／著書名／発行所 1) ナースが視る人体／薄井 坦子／講談社 2) ナースが視る病気／薄井 坦子／講談社 3) Module方式による看護実習方法書＜改訂版＞／薄井 坦子 監修／現代社 4) 写真でわかる臨床看護技術 ①／本庄 恵子 他／インターメディカ

必修科目 (6)

科目	看護の方法Ⅳ	単位	1	時間数	30	開講期	1年前期	担当者	看護師：杉山 加苗 看護師：脇田由紀子
----	--------	----	---	-----	----	-----	------	-----	------------------------

講義の概要および学習目標	<p>運動をすることと休息をとることは明確に分けることができない。休息をとりながらも身体は動きを完全に止めることなく、細胞や各器官は運動している。そして、その量が増せば休息が多く必要となる。人間は、“運動をすることで身体や精神面の維持を図り、次なる運動に向けて状態を整えるために休息をとる”ということを繰り返し、健康を維持しようとする。本科目は、その身体の働きを理解し、運動と休息のバランスをとるための援助方法について学ぶ科目である。また、講義を受けることで、運動と休息に対する理解を深め、自分自身がより健康に生きていくために、心身を意識的に動かしたり休めたりして自己管理ができるようになることもめざしている。</p> <p>《学習目標》</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 健康にとっての運動と休息の意義について理解する 2 看護する立場から、運動・休息をどのようにみつめていくのか理解する 3 運動と休息のバランスを整えるための基本的看護技術を身につける
講義内容	<ol style="list-style-type: none"> 1 運動と休息のバランスを整えるとは 2 健康にとっての運動の必要条件(運動の効果・生理的変化) 3 健康にとっての休息の必要条件(休息時の身体的変化・効果) 4 良い姿勢と体位・関節可動域・廃用症候群 5 人間の自然な動き・ボディメカニクス〔演習〕 6 体位変換・ポジショニング〔演習〕 7 車椅子・ストレッチャーの移乗・移送方法〔演習〕 8 ストレスとリラクゼーション〔演習〕 9 手浴・ハンドマッサージ〔演習〕 10 足浴〔演習〕 11 運動と休息のバランスを整えるための援助・事例を通して グループワーク〔演習〕 12 筆記試験
評価法	授業・演習参加姿勢 グループワーク及び個人課題 筆記試験・レポート
受講生への要望	<p>授業では、原理・原則を講義します。技術が身につく段階に達するためには、自己学習、繰り返しの練習が必要です。技術演習では、患者体験をもとにより良い看護について考えていきます。積極的に意見交換を行い、互いに学びあう姿勢をもち取り組んでください。</p> <p>自分の身体の手や足など全身を使って人に接する演習です。服装・髪の毛・爪などの身だしなみを整え授業に臨んでください。</p>
テキスト	書名／著書名／発行所 1) 系統看護学講座 専門分野「基礎看護技術Ⅱ」／任 和子 他／医学書院 2) 系統看護学講座 専門分野「臨床看護総論」／香春 知永／医学書院 3) ナースが視る人体／薄井 坦子／講談社 4) ナースが視る病気／薄井 坦子／講談社 5) 健康の地図帳／大久保 昭行／講談社
参考文献	書名／著書名／発行所 1) ナーシングバイオメカニクスに基づく自立のための生活支援技術／紙屋 克子 ／株ナーシングサイエンスアカデミー 2) Module方式による看護実習方法書<改訂版>／薄井 坦子 監修／現代社

必修科目 (7)

科目	看護の方法 V	単位	1	時間数	30	開講期	1年 後期	担当者	看護師: 山口 一世 看護師: 中村 泉 看護師: 小長井由樹
----	---------	----	---	-----	----	-----	----------	-----	---------------------------------------

講義の概要および学習目標	<p>人間の皮膚は外界の刺激から身体を保護すると共に、不要物を排泄する器官としての大切な役割を担う。そのため皮膚の機能を維持し、身体を清潔に保つことは人の健康にとって不可欠である。また、清潔が保たれることで人としての尊厳が保たれ、社会関係を保ち、社会の中で生活することができる。</p> <p>この科目では、人が清潔を維持し衣服をまとう意義を理解し、倫理的配慮に基づき安全安楽に清潔、衣生活を整えるための基礎的技術を学ぶ。</p> <p>《学習目標》</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 健康にとっての身体の清潔、衣生活の意義、健康障害をもつ人に対する身体の清潔の保持、衣生活への援助の必要性を理解する 2 自分で身体の清潔保持ができない対象に安全・安楽な清潔援助を行うための知識と技術を習得する 3 患者体験を通して、清潔援助を行う上での対象への配慮がわかる
講義内容	<ol style="list-style-type: none"> 1 清潔、衣生活の必要条件 2 洗髪、整容の基礎知識 3 整容〔演習〕 4 健康の回復を促進する清潔ケア〔演習〕 5 安心して受けられる清潔ケア〔演習〕 6・7 看護師が行う清潔ケアの意義〔演習〕 8・9 洗髪〔演習〕 10・11 陰部洗浄〔演習〕 12 統合演習①〔演習〕 13・14 統合演習②〔演習〕 15 終了試験
評価法	出席状況、授業、演習への参加姿勢、筆記試験により評価する
受講生への要望	清潔・衣生活の看護技術は実習でも多く経験する技術です。また、羞恥心や個別性への配慮が求められる技術です。真摯に取り組み、「気持ちいい」「さっぱりした」と思っていただけ技術に向けて練習を積み重ねてください。
テキスト	書名／著書名／発行所 1) 系統看護学講座 専門分野 「基礎看護技術Ⅱ」／任 和子 他／医学書院
参考文献	書名／著書名／発行所 1) ナースが視る人体／薄井 担子／講談社 2) ナースが視る病気／薄井 担子／講談社 3) 写真でわかる臨床看護技術 ①／本庄 恵子 他／インターメディカ 4) Module方式による看護実習方法書<改訂版>／薄井 担子 監修／現代社 5) 看護がみえるVol.1 基礎看護技術／メディックメディア

必修科目 (8)

科目	看護の方法VI	単位	1	時間数	30	開講期	1年前期	担当者	看護師:河内 友子 看護師:杉山 加苗
----	---------	----	---	-----	----	-----	------	-----	------------------------

講義の概要および学習目標	<p>この科目は、健康にとっての「食」と「排泄」の概念をおさえ、食と排泄のバランスを整えていくために必要な基礎的な看護技術を習得する科目である。健康にとっての食と排泄の必要条件を理解し、その条件を満たすためのケアの必要性を判断する力、食と排泄のバランスを整えるための方法を知り、援助技術を学ぶ。</p> <p>《学習目標》</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 健康にとって食と排泄を整えることの意義を理解し、病床における食と排泄環境を整える必要性を理解する 2 食と排泄が障害された時の看護援助を安全に行うための知識と技術を習得する 3 食事介助、排泄援助を受ける対象の思いを自ら体験することで、援助技術を行う際の配慮がわかる
講義内容	<ol style="list-style-type: none"> 1 「食と排泄のバランスをととのえる」とは・健康にとっての「食」の必要条件 2 摂食嚥下障害とは・栄養状態の把握 3・4 食事介助〔演習〕 5 事例から食事介助の方法を考える〔演習〕 6 経管栄養〔演習〕 7 健康にとっての「排泄」の必要条件 8 排便障害排泄用具を用いた排泄行動の援助〔演習〕 9 健康障害時の援助① 排尿障害 10 健康障害時の援助② 排便障害 11・12 排便障害時の援助「浣腸」 13 事例から排泄介助の方法を考える①〔統合演習〕 14 事例から排泄介助の方法を考える②〔統合演習〕 15 筆記試験
評価法	出席状況、講義・演習・グループワークの参加態度、レポート、課題、筆記試験を総合的に評価します。
受講生への要望	<p>「食」と「排泄」は生命活動を維持するうえで重要なものであり、本来自立し、習慣化されています。それだけに「食」と「排泄」の援助を受けるといことは、自尊心の低下や羞恥心をとまなうことがあります。</p> <p>この科目では患者体験で感じたことを活かしながら、人への配慮を忘れずに、技術習得に向けて励んでください。演習前後で自己課題やグループワーク課題が出来ます。いずれも、よりよい援助をするために必要なものです。みなさんが主体的に取り組むことを期待しています。</p>
テキスト	<p>書名／著者名／発行所</p> <ol style="list-style-type: none"> 1)システム看護学講座 専門分野「基礎看護技術Ⅱ」／任 和子 他／医学書院 2)ナースが視る人体／薄井 坦子／講談社 3)ナースが視る病気／薄井 坦子／講談社
参考文献	<p>書名／著者名／発行所</p> <ol style="list-style-type: none"> 1)Module方式による看護実習方法書<改訂版>／薄井 坦子 監修／現代社 2)看護がみえるvol.1 基礎看護技術／メディックメディア 3)看護がみえるvol.2 基礎看護技術／メディックメディア

必修科目(9)

科目	看護の方法Ⅶ	単位	1	時間数	30	開講期	2年前期	担当者	看護師:脇田 由紀子 看護師:松永 しのぶ 看護師:松本 理恵 看護師:小長井 由樹
講義の概要および学習目標	<p>看護者は患者にとって必要な診療が安全かつ効果的に行われるための基本技術を実施するとともに、その患者の生活をととのえることが必要である。そのためには、「診療の過程の補助に関すること」と同時に「日常生活への援助」を統合させ、診療を受ける人を支える看護の視点を持たなければならない。この科目では、診療を受ける人を支える看護の視点と医療者としての倫理観に基づいた安全かつ正確な基本技術を学ぶ。</p> <p>《学習目標》</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 診療の補助における看護の視点を理解する 2 患者が安全かつ的確な診療を受けるための基本的な知識・技術を身につける 								
講義内容	<ol style="list-style-type: none"> 1 診療時の看護と責任〔演習〕 2 滅菌物の取り扱い、滅菌手袋〔演習〕 3 与薬と看護 薬剤についての知識と取り扱い、与薬法 4 注射法 注射について・注射と安全・注射器具の取り扱い・薬剤の吸い上げ〔演習〕 皮下注射・筋肉内注射、静脈内注射、点滴静脈内注射〔演習〕 5 検査と看護 検査の意義・検査時の看護 6 血液検査 採血法〔演習〕 7 包帯法・テープ固定〔演習〕 8 酸素吸入療法〔演習〕 9 一時的導尿〔演習〕 10 筆記試験 								
評価法	出席状況、事前課題の成果、授業・演習への参加態度、筆記試験を総合評価とする								
受講生への要望	<p>本科目では、命を守り、健康を回復するという目標に向かって、医師と連携をとりながら行う看護の方法と技術を学びます。演習では自らが患者役となり体験する中で、患者の心理について考え、そこからさらに看護専門職者としての役割について考えてください。患者にとって安全・安楽な技術を提供するために、多くの知識・技術を統合することが必要です。感染予防、創傷、排泄、薬物療法などに関する基礎的な知識や看護の方法Ⅰ～Ⅵ、看護基礎力アップ演習で学んだ知識と、本科目で学ぶ知識や技術をつなげながら活用できるようにしていきましょう。</p>								
テキスト	<p>書名／著者名／出版社</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 系統看護学講座 専門分野「基礎看護技術Ⅰ」／茂野 香おる 他／医学書院 2) 系統看護学講座 専門分野「基礎看護技術Ⅱ」／任 和子 他／医学書院 3) 写真でわかる臨床看護技術 ①／本庄 恵子 他／インターメディカ 4) 写真でわかる臨床看護技術 ②／本庄 恵子 他／インターメディカ 								
参考文献	<p>書名／著者名／出版社</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) Module方式による看護実習方法書<改訂版>／薄井 坦子 監修／現代社 								

必修科目(10)

科目	看護基礎力アップ演習	単位	1	時間数	15	開講期	1年後期	担当者	看護師:宮田 芳衣 看護師:矢野 玲枝
講義の概要および学習目標	<p>この科目は、設定した事例患者に対して、看護の方法Ⅰ～Ⅵで学習してきた看護の専門的知識を活用し、対象をイメージし、対象にどうなってほしいのか、どうなることが回復にすむことになるのか(目的)を考える。原理原則に基づいた基本技術を実施し、患者の反応から振り返り(評価)、改善することを繰り返すことで、対象にとって安全、安楽、自立につながる基本技術の複合や応用を学ぶ。</p> <p>また、実施と振り返りを繰り返す中で、自己の看護技術の課題を見出し、技術力を磨いていくこともこの科目の目的である。</p> <p>《学習目標》</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 原理原則に基づいた生活援助技術を実施し、対象にとって安全、安楽、自立につながる基本技術の複合や応用を学ぶ 2 より良い援助にするために患者の反応から援助・技術の振り返りができる 3 繰り返し看護技術を練習することで、看護技術の習得レベルを向上させる 								
講義内容	<ol style="list-style-type: none"> 1 事例患者に必要な観察を考え、実施する。発熱時の看護援助を考える 2 事例患者に必要な日常生活援助を患者の状況に合わせて安全・安楽に実施する 3 事例患者の苦痛の緩和・安楽への援助を考え、実施する 事例患者の看護援助について2年生に相談し、より良い援助方法を考える 								
評価法	振り返りシート ルーブリック ピア評価(他者評価)								
受講生への要望	患者役は事例患者の動きや思いなどイメージしながら行ってください。患者役として気になったこと、不快や苦痛だったことなどは積極的に表現しましょう。そうすることで患者理解が深まり、援助の方法や技術をよりよいものにすることができます。練習をするなかで生まれた気づきや疑問もそのままにせず表現し、グループで話し合い援助を発展させてください。そして、演習を通して、うまくいかない、失敗することをたくさん経験してください。その体験を振り返ることで、学べるがたくさんあります。学びを積み重ね、自分の看護技術力を向上させていってください。								
テキスト	書名/著書名/発行所 1) 系統看護学講座 専門分野「基礎看護技術Ⅰ」/茂野 香おる 他/医学書院 2) 系統看護学講座 専門分野「基礎看護技術Ⅱ」/任 和子 他/医学書院 対象理解に必要な教科書								
参考文献	書名/著書名/発行所								

必修科目(11)

科目	看護理論	単位	1	時間数	15	開講期	2年後期	担当者	看護師：瀧 泉
講義の概要及び学習目標	<p>看護実践の場面では様々な事象に出会う。どう看護することがその人にとって最善か迷ったり、自分の実践は看護になっていたのかと悩むこともある。そんな時、看護の先輩である理論家たちはどのように考えてきたのだろうと、理論を紐解くことで、解決の糸口が見つかるかもしれない。この科目では、文献検索、文献研究の方法を体験しながら、ニード、相互関係、人間関係などを中心概念とした代表的な看護理論を理解する。理論家がどのように看護学を発展させてきたのか、生きた時代や社会背景をふまえ主要な概念と定義について理解を深める。</p> <p>《学習目標》</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 看護の概念や看護の本質、看護の定義はどのようにしてつくられてきたのかを知る 2 主な理論家の理論概要と特徴について説明できる 3 看護実践における看護理論の活用について考えることができる 								
講義内容	<ol style="list-style-type: none"> 1 看護理論を学ぶ意味 2 看護の歴史・看護学の発展と看護理論 3 看護理論の理解 4 看護における文献検索・文献講読 5 看護実践の共有 — 自己の看護実践の紹介と事実の掘り起こし— 								
評価法	提出課題、演習への取り組み状況による総合評価								
受講生への要望	<p>看護理論の理解では、グループを編成し、個人思考・集団思考・プレゼンテーションを行います。看護理論は、一見難解に思えるかもしれませんが、看護の先輩である理論家と対話するように関心をもって、グループワークに取り組んでください。</p> <p>最後に取り組む看護実践の共有は、3年次の「看護研究」の科目につながる内容です。「私の看護実践を聴いてもらいたい、知ってもらいたい」「あなたの看護実践を聴かせてほしい」お互いそんな姿勢で取り組み、より良い看護実践追究のヒント探しをしましょう。</p>								
テキスト	<p>書名／著者名／発行所</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 看護理論／筒井 真優美 編集／南江堂 2) 系統看護学講座 専門分野「看護学概論」／茂野 香おる 他／医学書院 3) 系統看護学講座 別巻「看護研究」／坂下 玲子 他／医学書院 								
参考文献	書名／著者名／発行所								